

"try"angleに「挑戦する視点」の意味を含め、3つの頂点に「当事者・家族・支援員」「施設・行政・地域」「過去・今・未来」などの多様な視点を重ねて、点から線、線から面に広げる支援への思いを込めています。

トライアングル

2015
秋・冬号

謹賀新年

発行日/平成 28 (2016) 年 1 月
発行/一般社団法人 大阪知的障害者福祉協会 発行責任者/安本 伊佐子
〒 542-0012 大阪市中央区谷町7丁目 4 番 15 号 大阪府社会福祉会館内
TEL 06-6763-3785 FAX 06-6763-3759 E-mail osaka-chifukukyo@giga.ocn.ne.jp

「共助」の精神を根づかせよう！～海外研修に参加して～

| | |
|--------------------------|---|
| ●時流あれこれ | 1 |
| スポーツを楽しみましょう | 1 |
| 第 34 回スポーツフェスタ 2015 大阪 | 2 |
| ●ぶらり施設訪問記 | 3 |
| 就労継続支援 B 型事業所 支援センターつなぐの | 3 |

| | |
|------------------------|---|
| ●ちょっとつばきりレ | 3 |
| 障害者支援施設 和泉の里 高井いづみ | 3 |
| ●部会報告 | 4 |
| 支援スタッフ委員会/編集委員紹介 | 4 |
| 平成 27 年 7 月～ 12 月 活動報告 | 4 |
| インフォメーション | 4 |

スポーツを楽しみましょう

障がいのある方こそスポーツを楽しんで下さい。

スポーツの魅力は、こころと身体に心地いい刺激があり、いつの間にか夢中になることです。そして何より仲間が出来る喜びが生まれることです。これは「する人」だけでなく「支える人」や「観る人」にも広がります。

そんなスポーツの“チカラ”を感じるためには、続けなければなりません。そのためには「楽しむこころ」が必要です。

その第一歩は体験することです。その時、既成のルールにとらわれず、そのルールや道具を工夫する遊び心を生かしましょう。

平成 25 年度文部科学省調査によると成人障がいの週 1 回以上のスポーツ参加率は 18.2% (健常者は 47.5%) で、成人の知的障がいの参加率は 14.4% でした。

スポーツ庁が発足し、「誰もがスポーツを楽しめる社会」をめざし障害者スポーツ振興室も設置され、障がいのスポーツ振興に弾みがつくと期待されています。

ファインプラザ大阪では、その“チカラ”を多くの方々に味わって頂きたく多くのプログラムを用意してお待ちしております。まずは取り組んでみましょう。そして楽しい仲間が出来ることを楽しんで下さい。

(大阪府立障がい者交流促進センター (ファインプラザ大阪) 所長 播野幸宏)

私事ですが、昨年は 2 度海外の福祉状況を見る機会に恵まれました。1 度目はマレーシアです。マレーシアでは、これまでも国際協力機構 (JICA) のプロジェクトでマレーシア国内におけるジョブコーチの養成に携わってきました。今回はその集大成として、「アジア太平洋地域ジョブコーチセミナー」が開催され、16 カ国が参加するセミナーへの参加でした。そこでは、各国の障がい者就労支援の状況のみならず、広く障がい者福祉について情報交換をすることができました。

2 度目は社会福祉振興・試験センター主催の経営者海外研修の調査派遣団としてベルギー・オランダに視察へ行かせて頂きました。こちらは、児童施設、障がい者施設、高齢者施設など幅広く支援現場及び福祉施策について学ぶ機会となりました。これら海外の福祉状況や制度を学んで、障がい福祉について二つ感じたことがあります。一つは日本の制度においては、財源の確保が課題であるものの、定義やシステム等の設計は非常に堅牢なつくりであるということ。二つめは、日本には国民による「共助」の精神がまだまだ不足しているのではないかと感じます。今回、見学や発表を聞いたりする中でも、寄付行為を含め、地域に「共助」の精神がしっかり根付いていると感じる取り組みがいくつもありました。

「公助」が充実すると「共助」が根付かない、その他にも文化や宗教観の違いなどいろいろな要素があるのだと思いますが、私自身、支援者として「共助」を根付かせるための努力を怠ってきたと反省しています。本年は「共助」精神について今まで以上に意識をしたいと考えています。一人の支援者にできることは限りがあるかもしれませんが、支援者自身が「共助」の精神を大切にし、その大切さを発信していくことが、その先にある「共生社会」の実現につながっていくのではないのでしょうか。



ベルギー児童施設にて



マレーシアセミナー会場にて

「共助」の精神を根づかせよう！～海外研修に参加して～

第34回スポーツフェスタ 2015大阪



「第34回スポーツフェスタ2015大阪」は、平成27年10月10日（土）から2週にわたって、ヤンマースタジアム長居をメイン会場に開催されました。2200名を超える選手と多数のボランティアの皆さまの参加のもと、9種目の競技を6会場で、最後まで盛大に開催できましたことを大変うれしく思います。毎年、参加者がいきいきと輝いている姿に感動しています。

スポーツフェスタは大阪知的障がい者スポーツ協会（構成6団体）が主催であり、構成6団体の役割分担により運営されています。運営の要としてジェイアイシーウェスト株式会社が事務局を担っています。

構成団体の1つである大阪知的障害者福祉協会は、レクリエーション競技の運営や各会場での準備と備品の搬入出作業（施設委員）、メイン会場でのメダル授与式運営（褒賞委員）や観覧席等の警備（保安委員）、受付総合案内（選手対応委員）など、ご協力・ご支援いただきありがとうございました。

（大阪知的障がい者スポーツ協会事務局）



本年度のスポーツフェスタは、10月10日（土）・11日（日）・17日（土）・18日（日）の4日間、大阪市長居陸上競技場を中心に開催されました。さて、今年で34回目を迎えたスポーツフェスタですが、私自身は昨年度に引き続き、施設委員という立場から選手みなさんのサポートをさせて頂きました。施設委員の一番の役割が、目に見えない部分でのサポートというのを聞ききました。目に見える部分のサポートしかできていないなあというのが正直な感想です。競技当日は、天気予報などからお天気が心配されましたが、晴れ間も広がり絶好のスポーツ日和となりました。

選手みなさんの、時には喜び、時には悔しがりといった、感情を全面に出す姿がとても印象的で、スポーツフェスタの素晴らしさを肌で感じさせて頂く事ができました。このような素晴らしい大会のほんの一部ではありますが、サポートができて大変光栄に思います。来年度以降も携わる機会がありましたら、今年以上に盛り上げ、素晴らしい大会になるよう選手みなさんのサポートを全力で行なっていきたいと思います。

（隆光学園 猪子健太）



社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会
就労継続支援B型事業所 支援センターつなぐの



東大阪市永和1丁目24-2

取材日：平成27年12月9日（水）
取材者：高井田苑 松本孝行
隆光学園 吉村周一



右から、藤井氏・吉村（取材者・國廣所長）

「支援センターつなぐの」は、大阪手をつなぐ育成会が運営する就労継続支援B型の事業所であり、水耕栽培用のビニールハウス（アグリガーデン）とゆくとくみち」内でフルレタスやサンチュなどの葉物野菜が栽培されています。今回は所長の國廣正則氏と障がい者職業生活相談員の藤井義久氏に話を伺い、施設内を案内して頂きました。

まず目に飛び込んできたのは、JRおおさか東線の高架下にあるビニールハウスで、街中では見られない珍しい光景でした。

■開所に至った経緯

大阪手をつなぐ育成会が農業に着目した就労支援を目指し、大阪外環状鉄道株主会社から土地を借り、農林水産省の「農と福祉の連携」モデル事業として、2014（平成26）年11月に運営を開始されました。

「新たに障がい者施設を建設する際、地域の理解を得るのに苦労するが、街中の野菜農園ということとで地域の理解を得やすかった」とのことでした。

■作業を通して地域との繋がりが

「支援センターつなぐの」では、利用者が野菜を育てる喜びを大切にされてい

ます。

作業内容は、利用者の得手・不得手に配慮しながら、「種まき」「植え替え」「収穫」「包装」「出荷」「栽培棚清掃」の他に、週3回ビニールハウス前で野菜の直売も行なっています。その販売活動を通じて直接地域の皆様方から「露地物に比べてえぐ味が少なくて食べやすい」「野菜嫌いの子どもが食べてくれる」などの声を聞き、利用者の「やりがい」となっているようです。

収入の安定に向けて、焼肉チェーン店に卸したり、宅配契約を行ったりなど販路拡大に努力をされている様子が窺えました。取引先の評判も高いようです。

■さうじ

今後の事業展開について伺いました。将来は、障がい者の就労支援に興味のある企業と連携し、より多くの工賃を渡せるようにしていきたい、アグリガーデンのブランド化を目指したいとのことでした。

今回の施設見学を通して、商品価値を高めて社会進出したいという思いが、福祉施設ではなく企業のように感じられました。我々の日中支援を振り返ってみると、このようない取り組みが実現できれば、障がい者就労と工賃への課題に対して、変化をもたらすきっかけになるのではないかと考えさせられた施設訪問となりました。

ちょっとつぶやき... リレー

障害者支援施設 和泉の里

看護師 高井いづみ

私は平成24年4月から社会福祉法人清光会和泉の里で看護師として働いています。

知的障がい者支援施設で働く経験がなかった私にとって、まず指示を仰ぐ医師が施設に常にはいないので、通院をするべきかどうかの判断が難しく、また利用者の方は自分から体調不良を訴えることがないので、はじめはとても戸惑いました。軟膏を塗布する処置ひとつにしても、名前を呼んでも逃げていかれたり、嫌がるなど苦労しました。しかし、看護師の先輩方をはじめ、支援員の方から利用者一人ひとりの性格や行動の問題などに対してのアドバイスをいただき、少しずつ関わりを持つことにより、看護出来る内容が増えていきました。今では利用者の方も私の顔を見て「高井さん来てくれた。」と笑顔で話しかけてくれるようにもなり、毎日やりがいを感ずることが出来ています。

これからも利用者一人ひとりの心の声に耳を傾け、安心して看護を受けていただけるよう心がけたいと思います。

今回は
かしま障害者
センター Link
水津由依さん
です



平成21年度より休止状態であった「支援スタッフ部会」が平成26年度から「支援スタッフ委員会」として再スタートしました。大阪府下7地区から各1名の幹事を選出し、支援スタッフの立場からの研修の提案や事業種別を超えた職員の交流会等を行っていく予定でしたが、なかなか本格始動が出来ず現在に至っています。先日、近畿6府県の支援スタッフ委員長が集まり、意見交換の機会がありました。その際にも、支援スタッフ委員会の組織作りが上手くいかず支援スタッフ委員会としての活動が行えていないという府県が多くありました。今後、早急に支援スタッフ委員会の基盤となる組織作りを進め、現場の職員目線で主体的に活動が行えるようにしていきたいと思っています。支援スタッフ委員会はまだ何をどのように進めていくのかという具体的な形のない状態です。現場職員の皆さんの参加を得て一緒に作り上げていきたいと願っています。どうかご協力くださいますよう、お願い致します。

(支援スタッフ委員長 坂本雅春)

編集委員紹介

平成27年度も施設訪問や職員によるインタビューをはじめ、様々な方からの協力を得てトライアングルを発行することができました。誠に有難うございました。

昨年に引き続き、編集委員による施設訪問記やインタビュー等を盛り込むことで、各施設での取り組み、この仕事のやりがいを見出すことができる特集を組んでいきたいと思っています。

本号より編集委員のメンバーに変更があり、以下の6名となりました。よろしくお願致します。

(編集委員 吉村周一)



上段右から、
岸田 耕三 (さらの郷)
水津 由依 (かしま障害者センター Link)
松本 孝行 (高井田苑)
下段右から、
山口 耕一 (守口市立わかさ・わかすぎ園)
吉武 貞直 (茨木学園)
吉村 周一 (隆光学園)

平成27年7月～12月 活動報告

7月

- ・ 児童発達支援部会 (児童通園：10日)
- ・ 第1回日中活動支援部会 (幹事会：16日)
- ・ 役員会 (17日)
- ・ 地域支援部会 (グループホーム：22日)
- ・ 第3回障害者支援施設部会施設長会 (24日)
- ・ 平成27年度新任研修打合せ (研修委員長と講師：27日)

8月

- ・ ホームページ開設に伴う打合せ (会長と委託業者：7日)
- ・ 権利擁護委員会 (4日)
- ・ 役員会 (21日)
- ・ 第2回日中活動支援部会 (施設長会：19日)
- ・ 第3回障害者支援施設部会 (幹事会：28日)
- ・ 第56回大阪知的障がい者福祉大会 (吹田大会：30日) 会長出席

9月

- ・ 近畿地区知的障害者施設協会役員会 (兵庫県：10日)
- ・ 地域支援部会 (グループホーム：14日)
- ・ 日本知的障害者福祉協会相談支援部会 相談支援・就業支援セミナー (新横浜国際ホテル：14日～15日) 相談支援部会長出席
- ・ 児童発達支援部会 (通園：15日)
- ・ 地域支援部会 (短期入所：16日)
- ・ 役員会 (18日)
- ・ 第1回発達支援部会施設長会 (児童入所：24日)
- ・ 第4回障害者支援施設部会 (施設長会：30日)

10月

- ・ 役員会 (16日)
- ・ 第34回スポーツフェスタ2015大阪 (10日～11日、17日～18日)
- ・ 第15回全国障がい者スポーツ大会 (紀の国わかやま大会：24日～26日) 大阪府選手団副団長として会長参加
- ・ 児童発達支援部会 施設見学及び講義 (通園：22日)
- ・ 第2回相談支援部会 (23日)
- ・ 第3回日中活動・生産活動・就労支援部会 (施設長会：27日)
- ・ 新任職員研修会 (29日)

11月

- ・ 障害者支援施設部会施設見学 ((社福) 障友会グループホー

- ム見学：5日)
- ・ 障害者支援施設部会施設見学 (ふくろうの杜見学：13日)
- ・ 権利擁護委員会 (17日)
- ・ 地域支援部会 (短期入所) 施設見学 (とうふく布施見学：17日)
- ・ 第4回日中活動支援部会幹事会 (18日)
- ・ 役員会 (20日)
- ・ 地域支援部会 (グループホーム：25日)
- ・ 障害者支援施設部会施設見学 (ゆかりの里見学：26日)
- ・ 機関紙「トライアングル」編集会議 (30日)

12月

- ・ 第38回近畿地区知的障害関係施設長等会議 (滋賀県：2日～3日)
- ・ 平成28年度ソフトボール大会久宝寺緑地日程調整会議 (8日)
- ・ 日本知的障害者福祉協会全国会長・事務局長会議 (東京：10日～11日)
- ・ 第5回障害者支援施設部会情報交換会 (施設長会：11日)
- ・ 第5回日中活動支援部会 (施設長会：11日)
- ・ 大阪府障害者福祉事業団 障がい福祉セミナー (12日) 会長出席
- ・ 役員会 (18日)
- ・ 児童発達支援部会 (入所：22日)

インフォメーション

INFORMATION

● 勉強会の開催

顧問弁護士の井上計雄氏をお招きし、施設現場で直面する課題「医療同意と死後事務への対応」について勉強しましょう。

日時 平成28年3月10日(木) 午後1時30分～3時30分

場所 大阪府社会福祉会館 505号室

定員 36名 (定員になり次第締め切ります。)

● 平成28年度社員総会

日時 平成28年6月24日(金) 午後

場所 大阪府社会福祉会館 301号室